
くさぐさ

kuro-kmd

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くさぐさ

【Nコード】

N3792P

【作者名】

kuro - kmd

【あらすじ】

自ら望んで草になった女。ある日気がついたら土に生えていた男。地面すれすれのところから聞こえてくる、名もなき草になった人々の呟き。

祥子

そこには燦々と照らす朝日があるはずだ。祥子は全身で感じていた。こちらが東、朝の力強い陽射しが差す側。今では自分がそちらに少しく身体をもたげて生えているのを感じる。毎朝くりかえしそちら側に気がいつてしまうのである。そうして今も、野原の草はみな揃って、朝日を求めてからだを傾げていた。

こんな夏の日に暖まりすぎると具合が悪い。下の方（人であったとき、庭先の砂利の間から生えたタンポポの仲間を抜きながら、まるでゴボウみたいな根、などと思ったものだ。それ、その根っこ）からぐつぐつと具合が悪くなる。それでも動くことが叶わないことに、なぜかはじめから慣れている。自分が間違いない、あの日土手で望んだように草になったのだと、全身が理解していた。

あなた、ちょっとあなた。無遠慮に割り込む声をする。せつかくこんな身分になったのに一体なんだと、祥子はいいやや耳をそばだてた。その瞬間、生温い液体が全身を覆い、妙に苦しくなった。満足げな犬がはふはふと息を切らして顔を寄せてくる。オシッコをかけられたんだわ！祥子は身震いしながら妙なものが這い上がるのを感じていた。

そのうち慣れるから。変わらず遠慮のない声が介入する。こういうのが嫌で草になったのに。祥子は憤慨する。マンション住まいをしていた時、ゴミを出す度にならずこういう婦人に出くわした。親切そうにじろじろと人のゴミ袋を透かすように見て、今日は資源ゴミじゃないのよ、とか、一軒で三袋までなのよ、とか親切めかして言う。同じではないか。こんな植物があるとは。祥子はじっと身構えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3792p/>

くさぐさ

2010年12月8日21時57分発行